

武道の関係団体と保健体育科教員等が連携して授業改善に取り組むことにより、教員の指導力を高めた実践例

学校名 花巻市立南城中学校（岩手県）第1学年

全校生徒数 243名（男子121名 女子122名）

種目等 武道（剣道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0198（23）4146

学校メールアドレス nanjochu@edu.city.hanamaki.iwate.jp

1 研究のねらい

関係団体と連携しながら、武道の安全に配慮した指導内容及び地域スポーツ指導者等の活用方策の在り方について実践研究を行うことにより、今後の武道指導の充実を図る。

2 研究の取組体制

（1）武道等指導推進委員会の設置

①構成メンバーは、大学教授、柔道・剣道関係団体、県中学校教育研究会保健体育部会、県PTA連合会、県教育委員会関係者である。

②7月22日と1月10日の2回開催した。

（2）実践研究校支援委員会の設置

①構成メンバーは、実践研究校代表者、地域の保健体育科教員、教育事務所指導主事である。

②7月8日、10月9日、11月7日の3回実施した。

（3）地区別中学校武道指導者研修会の実施

①公開授業、協議、流通経済大学 柴田一浩 准教授 招聘による実技研修及び講話により、教員の資質向上を図った。

②11月11日に実施し、県内保健体育担当教員29名が参加した。

3 研究の概要

（1）安全に配慮した指導内容の在り方について

①単元の前半に、態度の指導内容として「健康・安全に気を配ること」を設定し、危険な動作や禁じ技を用いない、他の組との間隔を十分にとって活動することの大切さを指導した。

②単元を通じて、竹刀を点検することなど、自己や仲間の安全に留意することを指導した。

（2）地域の指導者の活用方策の在り方について

①武道の関係団体と地域の保健体育科教員等が連携して授業改善に取り組んだ。

②体育学習における剣道指導のねらいを踏まえた上で伝統的な練習方法を取り入れた。

○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 床にテープで印をつけ、ペアの方向を揃えたり、適切な間隔を確保したりできるようにした。
- 2 竹刀の取り扱い方（持ち方や置き方など）を指導したり、授業前の教師による竹刀点検、毎時間の生徒による竹刀点検の機会を確保したりした。

○成果の意義と今後の課題

- 1 地域の保健体育科教員や地域の指導者との連携により、剣道の特性（楽しさや良さなど）を確認しながら授業づくりを進めることができた。
- 2 着装時間の効率化、教具（剣道具、竹刀）の工夫などを図っていく。

○ 研究内容

【動きのきばえを評価する判定試合】

判定基準は「声」「正確な打突」「体さばきとの一致」



【男女混合のグループ学習】

判定後に仲間のよい点や改善点をアドバイス



【すばやい着装】

胴と垂を3分以内に着装，結び方などを工夫



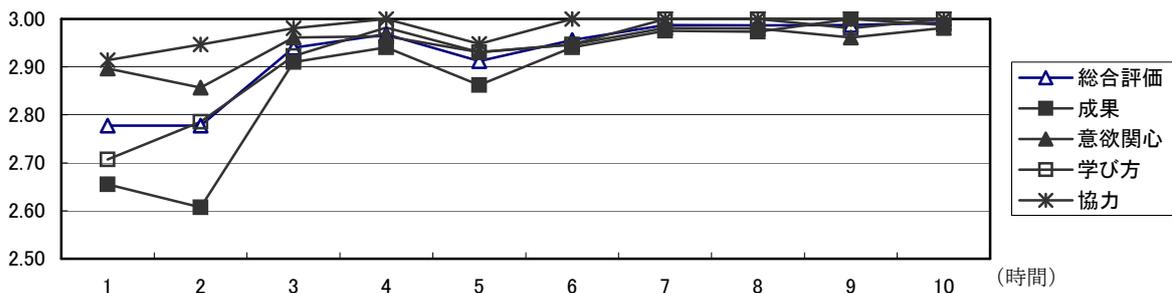
【安全に配慮した活動スペースの確保】

テープにより，各ペアの向きや適切な間隔を示した



【生徒の形成的授業評価】

総合評価，各観点ともに授業を重ねるごとに上昇傾向



【より楽しく安全な剣道授業を目指して】

ほとんどの生徒にとって，初めての種目との出会いとなった授業



「剣道は，面，胴，小手をただ打っただけだと思っていたけど，いろいろな応じ技や作法があることが分かった（生徒感想）」など，本単元は多くの新しい発見がある学習となった。次年度以降は，試合の行い方や教具（防具や竹刀）に工夫を加え，より深く剣道の特性に触れさせ，楽しく安全な授業を展開していきたい。

I 剣道の授業づくりの視点

- 1 導入段階で類似の運動を取り入れる。
- 2 対人で基本動作を指導する。
- 3 「対人的技能」を機会に教える。
- 4 運動の出来ばえを評価する「判定試合」を取り入れる。
- 5 技の基本練習と試合をつなぐ「攻防交代型」を取り入れる。

II 導入段階で類似の運動を

基本動作を最初から学習させるのではなく、導入段階で類似の運動をゲーム感覚で取り組ませる。

1 相手を崩すことを理解する



【写真1】柔道の帯を使ったバランス崩し



【写真2】次は帯二本で勝負



【写真3】フラッグとり

片手をつなぎ、相手のフラッグをとれば勝ち。
フラッグフットボール用のもの。手ぬぐいを利用してもよい。

2 相手の動きを予測することと打突部位を理解する



【写真4】剣道ジャンケン

しっかり構え、リズムをとって、勝負！
攻守を決め、相手が同じ部位を示したら攻撃成功。何回目で相手を仕留めるかの競争。

3 新聞紙切りで竹刀操作を理解する

<参考文献>

浅見裕「剣道好きをつくる指導 上」



【写真5】うまく切れるかな？

床に竹刀をぶつけないように気を付けること。
自分の足を打ってしまうこともあるので、畳を敷くなど安全面の配慮をすること。



【写真8】コップの水滴を切るように振る

Ⅲ 基本となる技を段階的に指導する

1 竹刀操作



【写真6】右手一本でまっすぐ振る
正中線を意識すること



【写真7】ひじを伸ばす

Ⅳ 教具の工夫について（剣道具・竹刀）

1 着装



【写真9】胴はエプロン結びでもよい
伝統文化としての結び方という考え方もあるが、着脱のしやすさに配慮することが必要である。

着座（立膝）のまま着装すること



【写真10】面の代わりにゴーグルをつける

V 対人的技能を機会に教える

1 応じ技「面抜き胴」の学習

相手の面打ちをかわして、できた隙(胴)を打つ。



【写真11】目を保護するためのゴーグル
ホームセンター等で購入できる。

2 竹刀



【写真12】簡易竹刀

打突部位(テープの印より先の部分)には芯が入っていない。



【写真13】竹刀の打突部位に印をつけた

竹刀操作のしやすい軽くて短いものを使用。
小学生高学年用：111cm以下、370g以上
小学生中学年用：105cm以下、280g以上
※ 生徒の体格や能力に応じて対応すること



【写真14】手刀による「面抜き胴」



【写真15】右足は外側へひらく
竹刀は担ぐようにする。



【写真16】打つときに左足を引き付ける
左足を引き付けることで安定する。



【写真 17】 打った後は、竹刀を前へ！



【写真 20】 審判団の判定「勝負あり！」



【写真 18】 面打ち（体さばきのタイミング）

<判定基準>

- ① 形がよかったか（姿勢）
- ② 声が大きかったか（声）
- ③ 打突の音がよかったか（打突）

VII 攻防交代型の試合

相手の動きを予測・判断しやすくするための工夫

- 1 打突部位を制限する
- 2 攻め方と防ぎ方を分ける
- 3 攻撃・防御回数を制限する

VI できばえを評価する判定試合



【写真 19】 面抜き胴の判定試合

仕掛ける人は「面」 応じる人が「面抜き胴」を打つ。これを交互に行いできばえを競う。
※同様のペアをもう一組つくり、どちらのペアがうまくできたかを競う方法もある。



【写真 21】 いざ、勝負！

ルール（例）

- ・ 攻撃側の打突部位は「面と胴のみ」
- ・ 攻防を交代して試合
- ・ 攻撃回数は制限時間内 30 秒で 3 回以内

地域の指導者と連携した武道 (剣道) 指導の実践例

学校名 吉富町外一市中学校組合立吉富中学校 (福岡県) 第2学年

全校生徒数 369名 (男子 195名 女子 174名)

種目等 武道 (剣道)

(本事例に係わる問合せ先)

電話番号 0979 (22) 0813

学校メールアドレス yoshi.jh@town-yoshitomi.ed.jp

1 研究のねらい

剣道の授業において、剣道指導の経験の少ない教員と、豊富な指導経験を有する地域の指導者との連携の在り方を探る。

2 研究の取組体制

(1) 地域の指導者と保健体育科教員との連絡協議会の設置

①単元が始まる前に、地域の指導者とともに指導計画立案に向けた検討会を行った。

②毎時において、授業前後に打合せを行った。特に授業後については、本時の評価・反省と共に次時の打合せを入念に行った。

③単元の終わりには、単元計画全体の見直しを行った。

(2) 授業担当以外の保健体育科教員及び、担任や他教科の教員の参観を増やし、指導教員と地域の指導者との連携や個々の生徒への効果的な指導の在り方について協議した。

3 研究の概要

(1) 地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

①地域の指導者は、地域の剣道場で児童生徒への指導に永く携わっており、剣道七段を有する。また、警察官OBであり、隣市では教育委員会の委嘱を受け小中学校のスクールサポーターとして、巡回等の職務を担っていることもあり、学校教育への理解も深い。

②指導に当たっては、本時のねらいや学習活動の流れ等のはじめの段階と、学習の振り返りや次時の予告などのまとめ段階を教員がT1として担当し、剣道に関わる内容は地域の指導者が中心となって指導するという役割分担で実施した。

(2) 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

①教員が実技講習会で習得した内容を生かし、指導計画を立案するとともに、それを基に地域の指導者や、他の保健体育科教員も参加した連絡協議会で協議し、より具体的な指導計画を作成した。

②地域の指導者の助言を基に作成した視聴覚教材 (剣道の特性、伝統的な考え方や行動の仕方、技能のポイント、等) を、PCを用いて大型モニターに映し、学習に活用した。また、同じ内容をプリントして資料として配付した。

○児童生徒の安全を確保するため配慮 (工夫) したこと

- 1 カーボン竹刀を準備し、指導者による授業前後の点検を行うとともに、授業中に数回、生徒に竹刀点検の指示をするなどして、安全面に対する意識を高めた。
- 2 防具がなかったこともあり、「正しく振る」「安全に受ける」ことを、特に留意させた。
- 3 指導者に対して扇形に広がって対峙するなど、左右前後と接触しないような隊形で活動させた。

○成果の意義と今後の課題

- 1 入念な打ち合わせにより、教員と地域の指導者がそれぞれの持ち味を生かした授業展開ができた。
- 2 地域の指導者を迎えたことにより、生徒達はより深く剣道の特性に触れることができた。
- 3 用具の準備や生徒の実態、授業時数等を踏まえ、さらに指導内容の精選を図る必要がある。
- 4 防具をそろえる必要がある。

○ 研究内容

【伝統的な行動の仕方】
着座、黙想、座礼、立ち方



【構えと体さばき】
中段の構え、前後移動の足さばき、大きな発声



【中段の構え】
地域の指導者による指導



【模範演技】
指導教員と地域の指導者による演技



【視聴覚機器の活用】
PCと大型モニターを用いての説明



【安全な受け方】
用具（防具）の整備がない授業の工夫



【生徒の感想】
生徒の授業中や授業後の声、アンケート等から

- ・ 剣道は初めて習った。最初は竹刀がうまく振れなかったけど、後半はできるようになって先生からもほめられた。楽しかった。
- ・ 剣道の先生（地域の指導者）はすごいと思った。竹刀を速く振ってピタッと止めたり、姿勢もかっこよかった。礼や相手を尊重するという説明もわかりやすかった。
- ・ 先生が二人いて、いろいろ教えてくれたので良かった。
- ・ 防具を着けて、練習や試合をしてみたかった。
- ・ 礼儀や作法がきびしいと思った。

【実践校としての感想】
地域の指導者と保健体育科教員の声より

- ・ 経験豊かな地域の指導者の説明や実技指導により、生徒達はより深く剣道の特性に触れることができた。同時に、指導経験の少ない教員の指導力を高めることもできた。
- ・ 連絡協議会や授業前後の打合せを通してそれぞれの役割を明確にしたことにより、内容の充実した指導が効率よくできた。
- ・ 二人で指導できたことにより、生徒個々への指導とともに、安全面にも十分に配慮することができた。
- ・ 防具があれば、さらに学習が充実したものになる。

地域の指導者による研修会で、教員の指導力を高めた実践例

実践市名 高槻市（大阪府）

種目 武道（剣道）

講習会のべ参加人数 50人

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 072（674）7631

メールアドレス ksidou@city.takatsuki.osaka.jp

1 研究のねらい

- （1）武道（剣道）の安全かつ効果的な指導方法について理解する。
- （2）保健体育科教員の武道における指導力の向上を図る。

2 研究の取組体制

（1）研究に至るまでの経緯

平成24年度から学習指導要領の完全実施により、武道が必修化となった。武道を安全にかつ円滑に実施できるよう学校における武道の指導の充実を図るため、本市では、平成23年度から全中学校で武道を実践し、保健体育科教員への実技講習会や地域の指導者と連携し、TTでの授業を実施してきたところである。

（2）実技講習会

- | | | | |
|-----|----------------|-----|---------------|
| 第1回 | 平成25年7月10日（水） | 第2回 | 平成25年8月23日（金） |
| 第3回 | 平成25年12月11日（水） | | |

3 研究の概要

（1）地域の指導者の協力を得た講習会の内容

高槻市剣道連盟と連携し、平成23年度から2名の地域の指導者により剣道における実技講習会を実施している。

- 教士八段、大阪府剣道連盟理事、大阪府剣道連盟未来構想委員会副委員長、元大阪府立高等学校長
- 教士七段、高槻市剣道連盟会長、大阪府剣道連盟常任理事、大阪府剣道連盟未来構想委員会委員長、全日本剣道連盟（上級）社会体育指導員

（2）具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- ①すぐに実践できそうな技を具体的に指導していただき、実際の授業で実践する。
- ②3年間講習会を続けてきた中で、特に今年度は教員に対して目的意識を持たせる。
- ③講習会で着装方法や防具を着装して授業を行うメリット等を指導していただく。

○実践市として生徒の安全を確保するため指導、配慮、工夫したこと

- 1 竹刀は安全面を考慮し、カーボン竹刀を活用している。
- 2 剣道を実施する上で配慮しなければならないこと（竹刀の点検方法・体育館床の安全等）について研修の内容に盛り込む。

○成果の意義と今後の課題

- 1 平成23年度から研修を積み重ねてきたことにより、教員の指導力の向上につながっている。
- 2 防具の着装方法及び安全かつ効果的な指導方法について繰り返し学ぶことで、自信を持って生徒への指導に当たることができるようになった。
- 3 適切な評価規準・評価方法を設定し、評価をしていくことが課題である。

○ 研究内容

【防具を着装した実技研修】

実際生徒が身に付けている防具を活用して研修を実施



【防具の着装方法について】

手ぬぐい・面の着装の仕方について



【地域指導者と連携した剣道授業】

1年生剣道の授業



【剣道実技研修】

平成 25 年度は 3 回の実技研修を実施し、研修終了後に実践への生かし方、感想等を記入

- ・胴を着装させて防具をつける感覚を生徒に学ばせ、授業を実践していくことを考えていきたい。
- ・具体的な応用技がとても分かりやすく、すぐに授業で実践することができそうなものばかりだった。
- ・今回で 3 回目の研修だったので、少し基礎が身に付いたと思う。言葉でうまく生徒に伝えることができるように頑張りたい。
- ・武道の中でも剣道は初心者でも取り組みやすく、楽しむことができ、礼儀を教えるのにとっても良い種目だと感じた。
- ・研修の回数を重ねるごとに剣道の楽しさが分かってきた。初心者にも丁寧に指導していただき、自信につながった。
- ・研修を受けて、剣道の楽しさを知った。生徒にも同様の楽しさを味わわせることができれば最高だと思う。